平成 31 年度全国学力・学習状況調査 ＝紀宝町の結果概要＝

令和元年９月２日 紀宝町教育委員会

１．各教科の「平均正答率」・「平均正答数」等

【小学校】

	国　語	算　数
紀宝町	64% (9.0/14 問)	64% (8.9/14 問)
三重県	64% (9.0/14 問)	67% (9.3/14 問)
全　国	63.8% (8.9/14 問)	66.6% (9.3/14 問)
平均無解答率（紀宝町）	6.3%	3.1%
平均無解答率（全国）	6.2%	2.7%

・町平均正答率は、全国平均との比較では、国語で全国平均を上回り、算数では全国平均をやや下回っています。

・また、町平均無解答率は、前年度は全ての教科で全国平均より低かったのですが、A・B 問題が一体化し問題が長文化した影響もあってか、国語・算数ともに全国平均よりわずかに高くなってしまいました。しかし、この町平均無解答率の低さは、児童たちは最後まであきらめず粘り強くテストに取り組んだことを示しています。

【中学校】

	国　語	数　学	英　語
紀宝町	71% (7.1/10 問)	61% (9.8/16 問)	58% (12.1/21 問)
三重県	72% (7.2/10 問)	60% (9.6/16 問)	56% (11.8/21 問)
全　国	72.8% (7.3/10 問)	59.8% (9.6/16 問)	56.0% (11.8/21 問)
平均無解答率（紀宝町）	1.3%	3.8%	3.1%
平均無解答率（全国）	2.6%	7.3%	6.0%

・町平均正答率は、全国平均との比較では、国語で全国平均をわずかに下回ったもの

の、数学、英語の 2 教科とも全国平均を上回る結果となりました。

・町平均無解答率も、全ての教科で全国平均と比較して、およそ半分程度となっており、中学 3 年生たちも最後まであきらめずに本当に粘り強くテストに取り組む姿勢を見せてくれたと言えます。

・さらに、小学校 6 年時の本調査では、全教科で全国平均正答率を下回っていたのですが、今回は大きく改善され、全国を下回った国語も全国平均との差を大きく縮めることができました。

（H28 小 6：国 A ▲7.3pt・国 B ▲4.3pt　→　H31 中 3：国 ▲1.8pt）

＝ 平均無解答率の改善について ＝

以前は、長い文章を読まなければならない問題に出会ったら、問題も読まずに最初から解答をあきらめてしまう児童・生徒も少なくありませんでした。

しかし、ここ数年紀宝町では、どの学校でも児童・生徒たちに「たとえ、難しい問題に出会ったとしても、最後まであきらめずにがんばろう。」という指導を徹底してきました。また、定期テストや普段の授業においても、簡単にあきらめてしまわず粘り強く考えようという指導にもていねいに取り組んできました。

そのような各学校での継続的な指導の結果、前ページの表からもわかるように、町平均無解答率が減少傾向（＝粘り強い姿勢で学習に取り組む児童・生徒が増加してきている）にあり、紀宝町の児童・生徒たちの成長につながっていると言えます。

《参考》「標準化得点」による経年変化の比較

全国学力・学習状況調査の各教科の問題は、毎年問題数や難易度等が異なることから、各年度の平均正答数や平均正答率だけで単純な比較はできません。

そこで、文部科学省が作成した「標準化得点換算ツール」を使用して、その年の全国平均正答率を 100 とした場合の紀宝町における得点状況を「標準化得点」として算出しました。

そうすることで、全国的な状況との関係について年度間の変化を経年で比較することができます。

小学校	H31		H30	H29
国語	100	国語 A	97	99
		国語 B	98	99
算数	99	算数 A	98	98
		算数 B	97	97
全国	100		100	100

中学校	H31		H30	H29
国語	99	国語 A	99	97
		国語 B	99	98
数学	100	数学 A	102	99
		数学 B	99	99
英語	101			
全国	100		100	100

・ただし、平成 31 年度調査から A 問題（知識）と B 問題（活用）に関する問題を一体的に問う問題形式となったため、直接経年変化を比較することはできませんので、

あくまで参考としてご覧ください。

・小学校では平成 30 年度調査までは全国平均を少し下回る状況で推移してきたのですが、平成 31 年度調査では、ほぼ全国平均と同じ標準化得点を得ることができています。

・また、中学校では毎年少しずつ改善されており、平成 30 年度調査ではどの教科もほぼ全国平均に並び、とくに数学 A においては初めて全国平均を上回りました。さらに、平成 31 年度調査では全ての教科でほぼ全国平均に並ぶ、もしくは上回ることができています。

２．各教科における特徴

【小学校】

○…紀宝町の強み、▲…紀宝町の弱み

国語	《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》 **・全国より高い…「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」** **・全国より低い…「話すこと・聞くこと」、「読むこと」** ○「漢字を文の中で正しく使う：調査のたいしょう」（領域：伝統的な言語文化…）については、正答率が 61％だが、全国平均を 19pt も上回っている。 ▲「文と文との意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書く：1 文を接続語『そこで』を使って 2 文に書き直す」（領域：伝統的な言語文化…）については、正答率が 39％に留まり、全国平均より 9pt 下回っている。
算数	《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》 **・全国より高い…** **・全国より低い…「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」** ○「加法と乗法の混合した整数と小数の計算：6＋0.5×2」（領域：数と計算）については、正答率が 76％で、全国平均を 16pt 上回っている。 ▲「除法に関して成り立つ性質を記述する：割られる数と割る数を同じ数で割っても商は変わらない」（領域：数と計算）については、正答率が 22％に留まり、全国平均より 9pt 下回っている。

【中学校】

国語	《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》 **・全国より高い…「書くこと」** **・全国より低い…「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」** ○「文章に表れているものの見方や考え方について，自分の考えをもつ：記述式」（領域：読むこと）については、正答率 97％で、全国平均を 6pt 上回っている。 ▲「話合いの話題や方向を捉える：選択式」（領域：話すこと・聞くこと）については、正答率が 71％で、全国平均より 9pt 下回っている。

数学	《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》 **・全国より高い…「図形」、「関数」、「資料の活用」** **・全国より低い…「数と式」** ○「資料を整理した表から最頻値を読み取る」（領域：資料の活用）については、正答率 67％で、全国平均を 9pt 上回っている。 ▲「与えられた説明を振り返って考え，式変形の目的を捉える：6n＋9 を 3(2n＋3)に変形する理由」（領域：数と式）については、平均正答率が 49％に留まり、全国平均を 8pt 下回っている。
英語	《学習指導要領の領域ごとの平均正答率》 **・全国より高い…「聞くこと」、「書くこと」** **・全国より低い…「読むこと」** ○「与えられた情報に基づいて，ある女性を説明する英文を書く：She comes from Australia.」（領域：書くこと）については、正答率 71％で、全国平均を 18pt 上回っている。 ▲「文の中で適切に接続詞を用いる：if」（領域：書くこと）については、平均正答率が 68％で、全国平均を 12pt 下回っている。

３．児童・生徒質問紙の特徴的な傾向

「児童・生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。ここでは、特徴的な傾向を示している質問とその回答をいくつか取り上げ、それらについて分析（コメント）します。

※以下のコメントでは、基本的に「『当てはまる』『どちらかと言えば当てはまる』と回答した」児童・生徒を、「肯定的な回答をした」児童・生徒と表します。

学びの充実に向けて

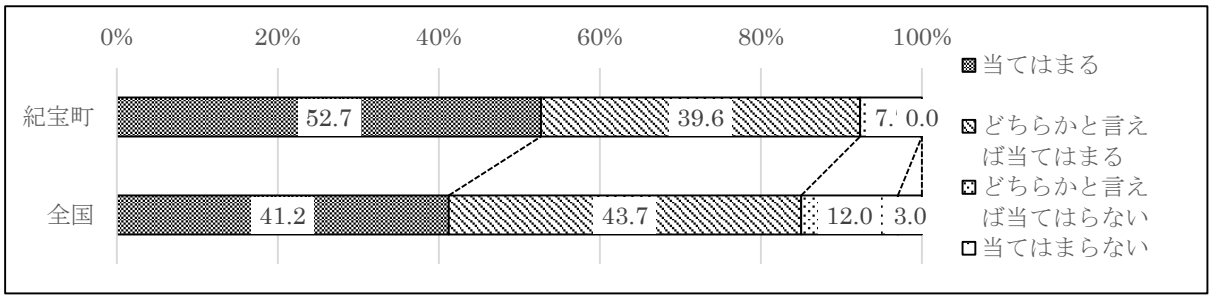
◎「【小学校】（1）の質問《以下、小（1）と表す。中も同様》：国語の授業の内容はよく分かりますか」では、肯定的な回答をした児童・生徒の割合が小・中ともに全国より７ポイント上回った。さらに、小学校の「小（3）：先生は、…分かるまで教えてくれると思いますか」では、全国より６ポイント上回っており、小学国語の学力調査が初めて全国平均を上回ることができた要因のひとつと考えられる。

◎また、中学校英語では「中（3）：授業の内容はよく分かりますか」では 5 ポイント、「中（4）：･･･（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたか」では 13 ポイントも肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を上回っており、これらも中学英語の学力調査が全国平均を上回ることができた要因のひとつと考えられる。

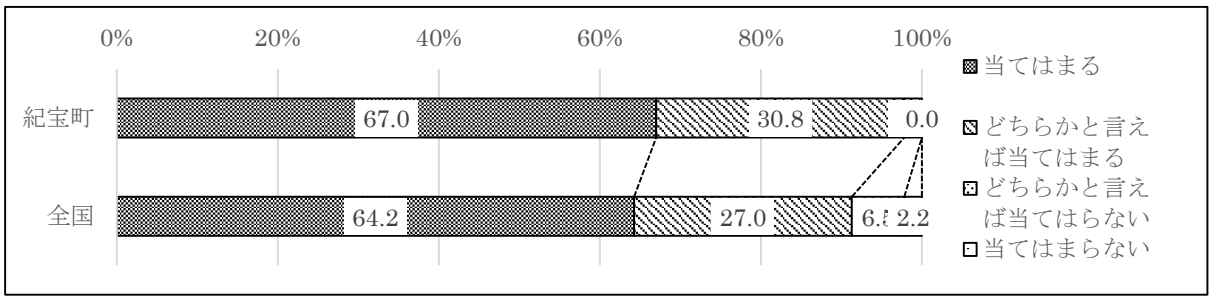
◎さらに、中学校の「中（5）：…学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたか」では、肯定的な回答をした生徒の割合が６ポイント全国平均を上回り、道徳のみならず多くの教科でグループ活動を取り入れるなど新学習指導要領の実施に向けて、町内教職員が積極的に授業改善に取り組んでいる様子が伺える。

【小学校】

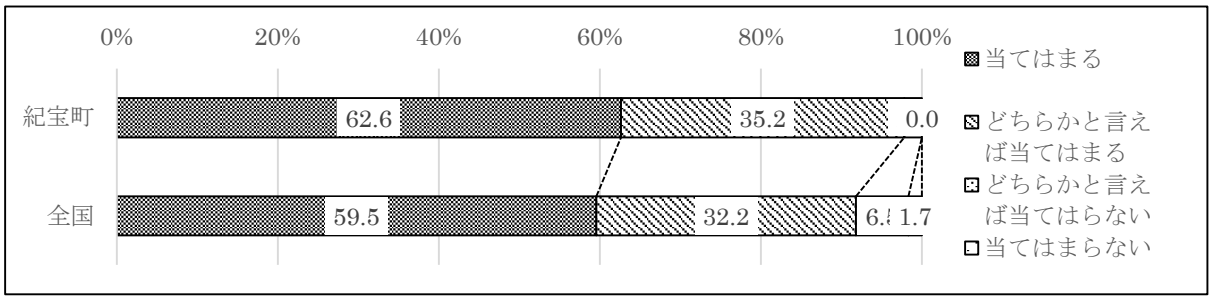
(1) 国語の授業の内容はよく分かりますか



(2) 国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか

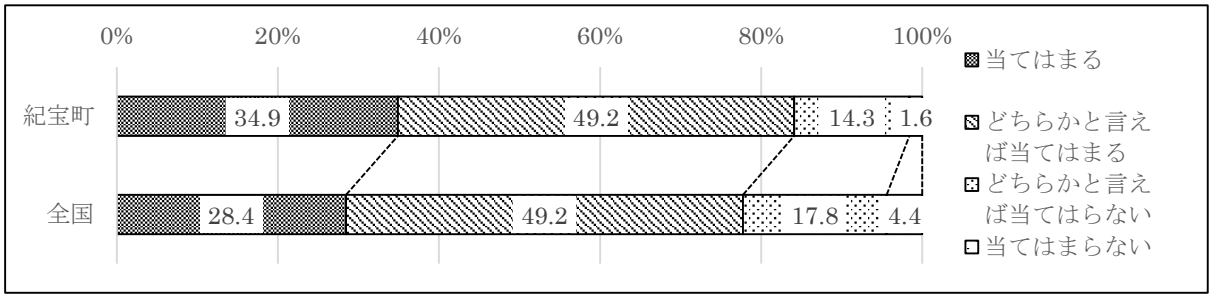


(3) 先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれていると思いますか

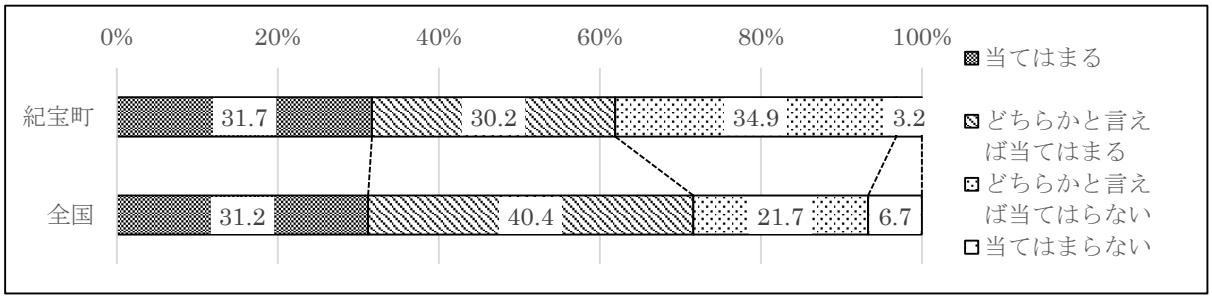


【中学校】

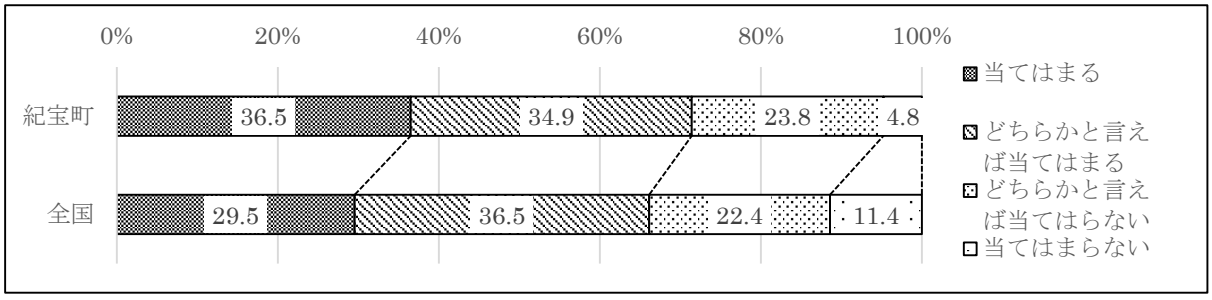
(1) 国語の授業の内容はよく分かりますか



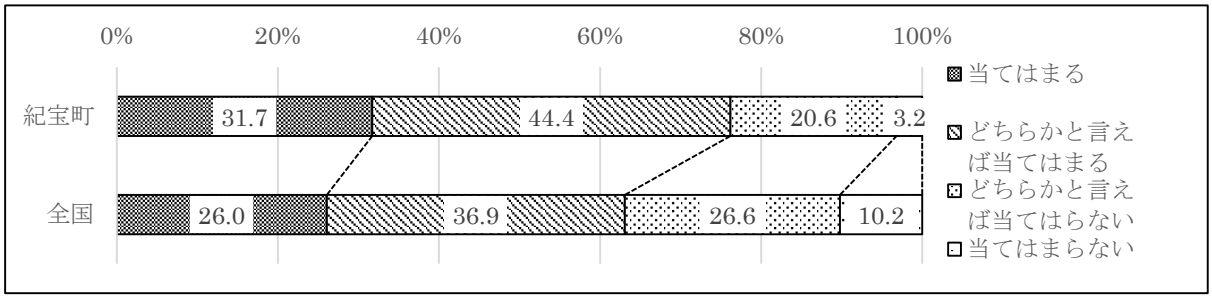
(2) 国語の授業で学習したことを，普段の生活の中で，話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか



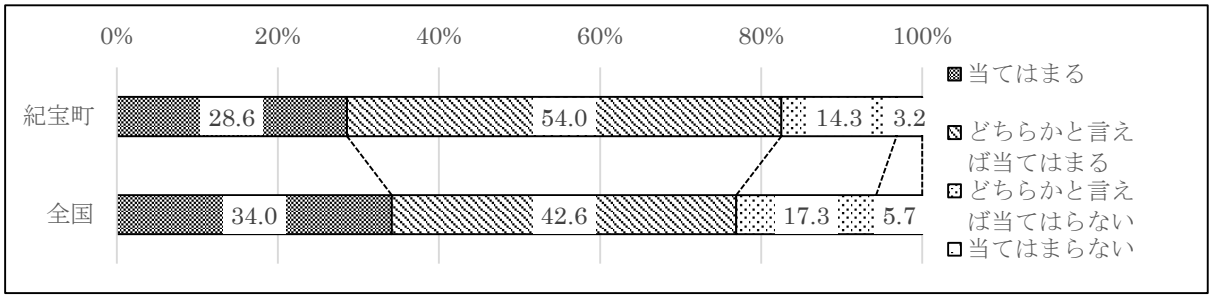
(3) 英語の授業の内容はよく分かりますか



(4) １，２年生のときに受けた授業では，原稿などの準備をすることなく，(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか



(5) １，２年生のときに受けた道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか)



家庭学習 ・ 生活習慣について

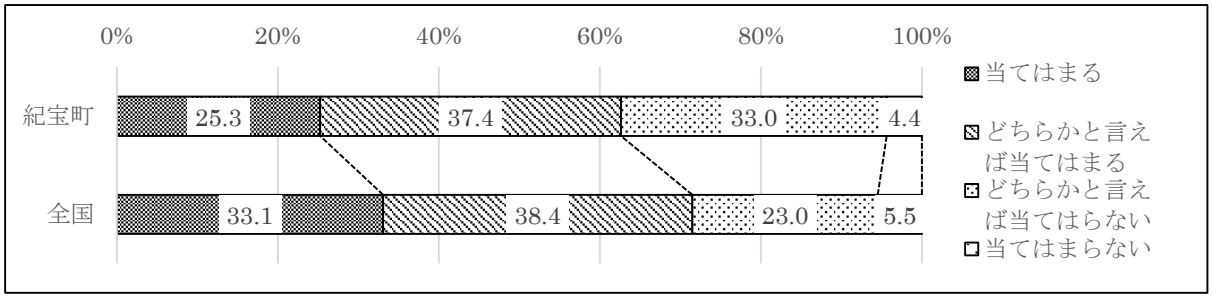
◎「小（1）：家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的な回答をした小学児童の割合は、全国より９ポイント下回っている。昨年度はほぼ全国平均と同じ（67%）だったので、主体的な家庭学習の定着については、これからも課題として継続的な取組を進めていく必要がある。

◎一方、「中（1）：家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」では全国を５ポイント上回った。昨年度は 14 ポイントも全国を下回っていたので、中学校では主体的な家庭学習への意欲が改善された形となった。今後はこの結果も考慮しながら、進路指導やキャリア教育の充実について検討していく必要がある。

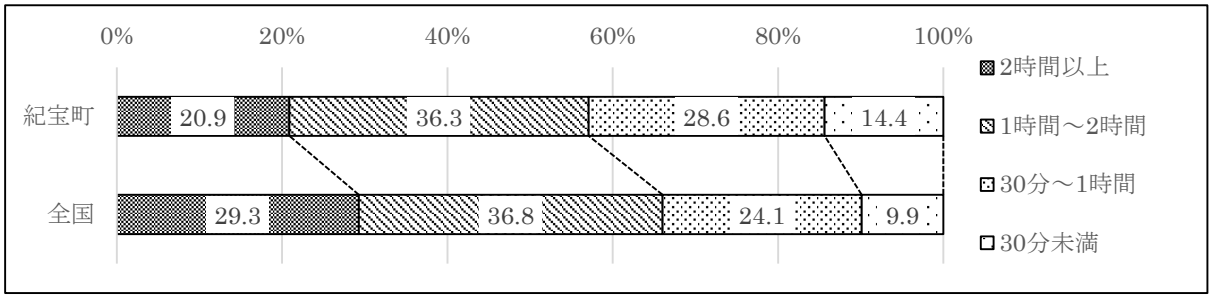
◎ さらに、家庭学習の状況（「小・中（2）」）を学習時間をもとに分析してみると、「2 時間以上」と「1 時間～2 時間」が小学校で９ポイント全国を下回り、中学校では 13 ポイントも下回る結果となった。しかし、中学校では学習計画を立てる生徒の増加に伴い、「30 分未満」の生徒が５%と昨年度（27%）よりずいぶん少なくなり、さらに全国平均と比べても８ポイントも少ない。このことも数学・英語の学力調査が全国平均を上回ることができた要因のひとつと考えられ、今後も家庭と連携・協力しながら、継続して主体的な家庭学習の定着を図っていく必要がある。

【小学校】

(1) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

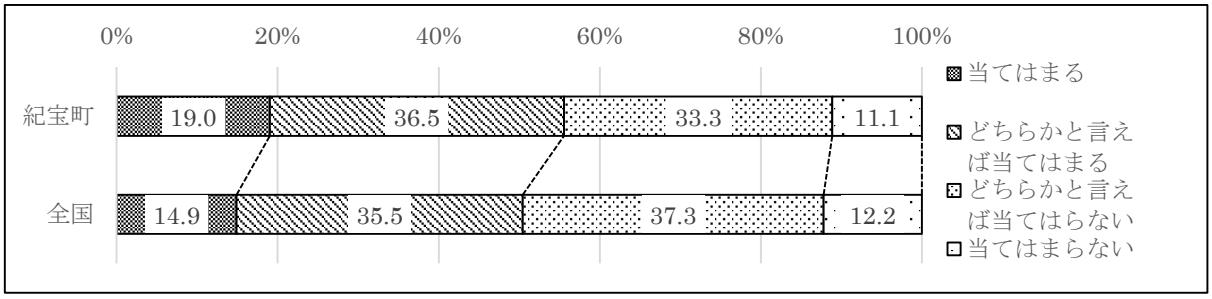


(2) 学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか

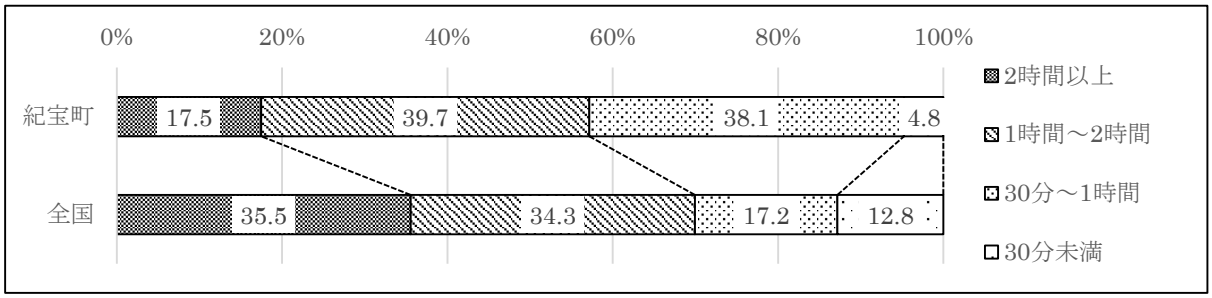


【中学校】

(1) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



(2) 授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか。



自尊感情 ・ 規範意識について

◎「小・中（1）：将来の夢や希望を持っていますか」に対して、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、昨年度は小中ともに全国平均を下回り、とくに中学校では18 ポイントも低かったが、今年度は小中ともにかなり改善されている。学力調査

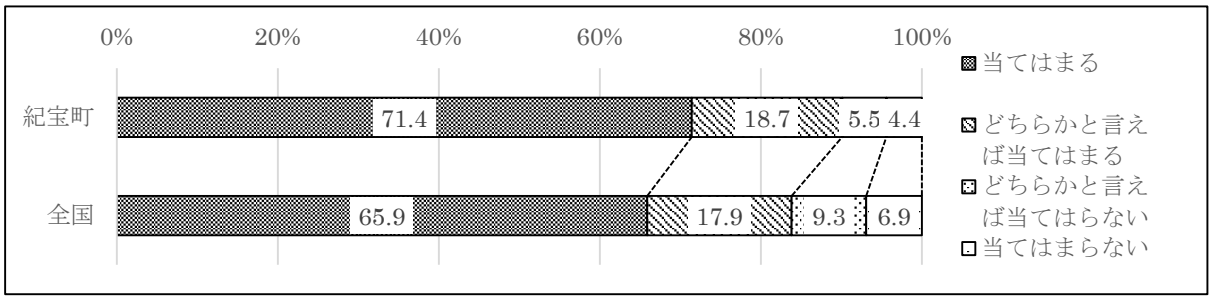
の成績の向上とともに、自信や自尊感情も少しずつ高まってきた様子が見て取れる。

◎「小（2）：学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、肯定的な回答をした小学児童の割合は、98%と全国を６ポイントも上回っており、紀宝町の子どもたちの規範意識はたいへん高いと言える。（参考：中学生も全国を上回っている）

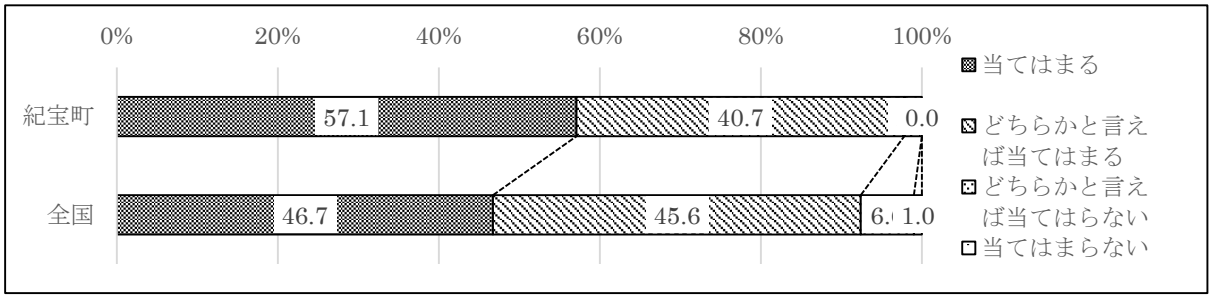
◎「中（2）：難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」に対して、肯定的な回答をした中学生徒の割合は､84%と全国を14ポイントも上回っている。このことからも、子どもたちの自尊感情の高まりとともに、意欲ややる気がさらに高まってきている様子が伺える。（参考：小学生も79%と全国を上回っている）

【小学校】

(1) 将来の夢や目標を持っていますか

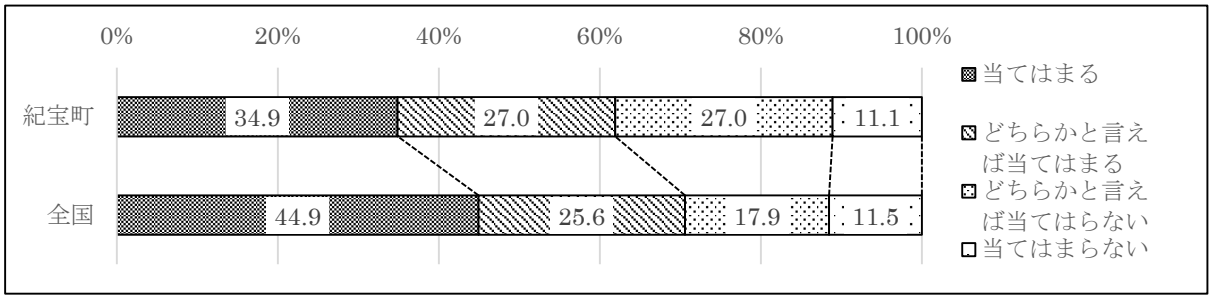


(2) 学校のきまり・規則を守っていますか。

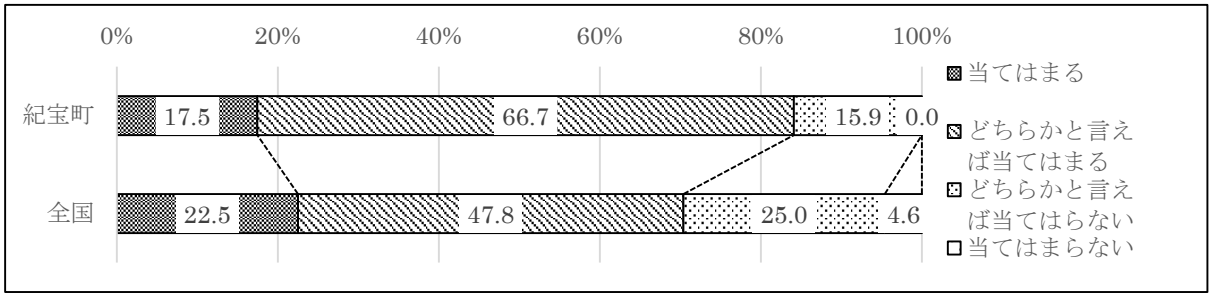


【中学校】

(1) 将来の夢や目標を持っていますか



(2) 難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか



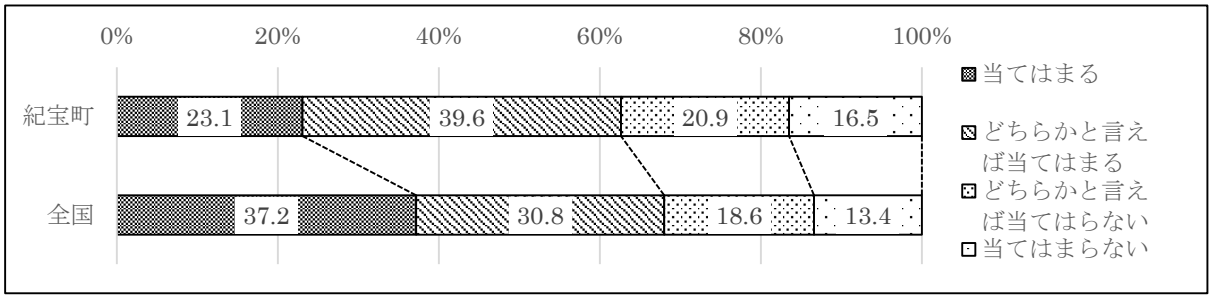
地域との関わり、社会への関心について

◎「小・中（1）：今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して、肯定的な回答をした小学児童の割合は 63%（全国比：－5 ポイント）、中学生徒の割合が 62%（全国比：＋11 ポイント）となっており、全国的には小から中にかけて、地域行事への参加が減少していく傾向にある。しかし、紀宝町では全ての小中学校がコミュニティ・スクール（＝学校運営協議会を設置する学校）として積極的に活動しているように、小学生・中学生ともに地域の方との関わりを持つ機会がたいへん多く、この結果からも、紀宝町の子どもたちは地域の方々に育てていただいているという様子が伺える。

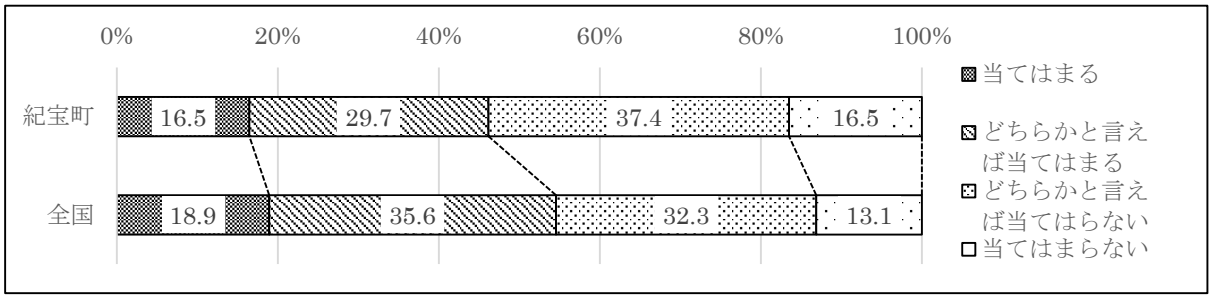
◎ さらに、「小・中（2）：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対しても、肯定的な回答をした小学児童の割合は 46%（全国比：－8ポイント）、中学生徒の割合が 44%（全国比：＋5 ポイント）と、全国のように中学生になっても地域や社会に対する関心が急に低下してしまうことはない。やはり、小学校から中学校にかけて地域の方との関わる機会が多く、学校の授業だけでは学べない、ものの見方や考え方に触れることができるため、自分たちが生活している紀宝町への郷土愛や将来の社会についての関心は高いと言える。

【小学校】

（1）今住んでいる地域の行事に参加していますか

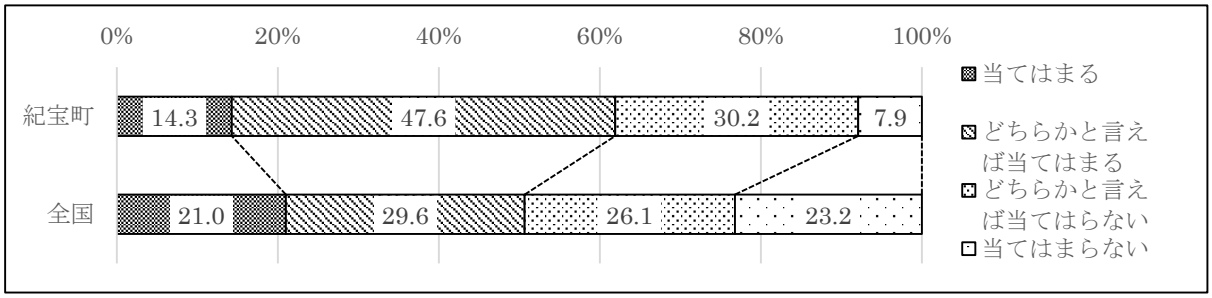


（2）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

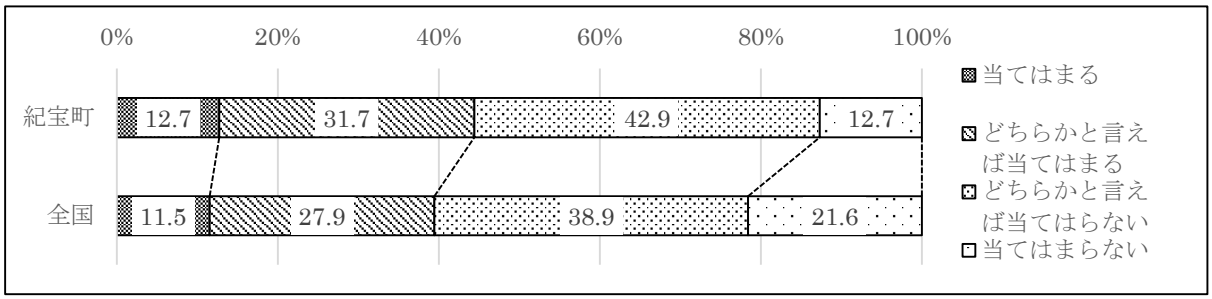


【中学校】

（1）今住んでいる地域の行事に参加していますか



(2) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



４．学校質問紙の特徴的な傾向

「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。ここでは「学校質問紙調査」のうち、特徴的な傾向を示している項目をいくつか取り上げ、それらについて分析（コメント）します。

全国平均を上回った項目（強み）　＝ 紀宝町の小中学校の強み

《組織的な学校経営の推進》

・「学校として業務改善に取り組んでいますか」

・「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し，学校として組織的に取り組んでいますか」

・「校長のリーダーシップのもと，研修リーダー等を校内に設け，校内研修の実施計画を整備するなど，組織的，継続的な研修を行っていますか」

◎ 現在の学校を取り巻くさまざまな課題を解決していくためには、学校の組織としての在り方や、学校の組織文化に基づく業務の在り方などを見直し、「チームとしての学校」を作り上げていくことが大切であると言われている。（文科省）

◎ これらの項目（強み）に見られるように、紀宝町の小中学校においても、学校長のリーダーシップのもと、チームとしての組織的な学校経営が進められており、教職員の共通理解の深まりや、取り組むべき教育活動の方向性の共有化が図られていることが見てとれる。

《授業改善に向けた研修の推進》

・「授業中の私語が少なく，落ち着いていると思いますか」

・「学習規律（私語をしない，話をしている人の方を向いて聞く，聞き手に向かって話をする，授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか」

・「授業研究や事例研究など，実践的な研修を行っていますか」

・「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し，具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか」

◎ 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」という項目に対して、町内全ての小中学校が肯定的な回答をしており、町内小中学校の大きな強みと言える。児童・生徒の礼儀正しさや規範意識の高さと相まって、町内の小中学校では、子どもたちは落ち着いて真面目に授業に取り組むなど、授業規律もしっかりと確立されていることが伺える。

◎ さらに、全ての小中学校において、実践的な授業改善研修の実施、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の分析結果の活用など、授業改善に関する継続的な検証・改善サイクルが確立しつつあるとも言える。

《地域とともにある学校づくり～地域との関わり～》

・「指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか」

・「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして，保護者や地域の人との協働による活動（学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営など）を行いましたか」

・「保護者や地域の人との協働による（上のような）取組は，学校の教育水準の向上に効果がありましたか」

◎ 昨年度と同様、この項目は児童・生徒質問紙調査の結果にも見られるように、紀宝町の小中学校の大きな強みであり、各学校において子どもたちの成長のために、地域との連携や協力を大切にしながら教育活動に取り組んでいる様子が伺える。

◎ 昨年度から全ての小中学校で「学校運営協議会」が設置されたこともあり、今年度はより地域との連携がより深まったとも言える。今後も「地域とともにある学校（＝コミュニティ・スクール）」として、この地域との関わりを大切にした教育活動をさらに推進していけるよう、「紀宝町学校運営協議会連絡協議会」を中心に、各学校のコミュニティ・スクールとしての活動を支援していく必要がある。

全国平均を下回った項目（弱み）　＝ 紀宝町の小中学校の弱み

《主体的な家庭学習習慣の定着》

・「家庭学習の課題の与え方について，校内の教職員で共通理解を図りましたか)」

・「児童・生徒が行った家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について，評価・指導を行いましたか」

◎ 家庭学習に関する指導について、「児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか」や「家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」は全国平均を上回り、前年度より改善が見られた。【ここに挙げていない項目】

◎ しかし、これらの項目（弱み）からもわかるように、少しずつ改善が見られるものの児童・生徒質問紙調査でも課題となっている『主体的な家庭学習習慣の定着』については、「課題の与え方に関する共通理解」や「評価・指導の方法」などに弱みが見られるため、さらに検討を進めていく必要があると言える。

４．今後の町教育委員会の取組 =改善に向けて=

紀宝町教育委員会では、今回の学力・学習状況調査の結果からわかる子どもたちや各学校の「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。現在、各学校の主体的な取組を支援する主な事業として、次のような児童・生徒の学力向上の取組を進めています。

✧ **紀宝町学力向上推進協議会による指導方法の工夫・改善、各学校全職員の協働による学力向上の取組の継続的な検証サイクルの確立**

※全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの活用

・各学校での自校採点と結果分析による、課題の共有と授業改善

・過去問題や県教委作成ワークシートの授業・家庭学習での活用

※学力向上に向けた各学校への支援

・新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた確かな学力の育成

・授業改善の取組を通じた、学習の基盤としての言語活動の充実　　など

※町内の優れた実践を活用・共有化～各学校の公開授業研究会等への支援～

・著名な大学教授等の講師を招聘した先進事例に学ぶ機会として

✧ **新学習指導要領実施に向けた小学校英語担当者会議の開催**

※小・中が連携した小学校英語教育の推進（ALT を活用した授業体制の確立）

✧ **各学校の授業力向上と指導方法の改善のための校内研修への支援**

※各学校の校内研修へ町教育委員会指導主事・アドバイザーを派遣

※県教育委員会や紀州教育支援事務所指導主事からの支援・助言

✧ **サマースクール・ウィンタースクールおよび放課後サポートスクール事業による自主学習の習慣化**

✧ **教員の授業力の向上と指導方法の改善を図るための紀宝町研究指定校事業（毎年 2 校を指定）の実施や、石川県中能登町教職員との視察交流研修の推進**

✧ **鵜殿図書館との連携による幼児期からの読書活動推進の取組や学校における読書活動推進の支援**

✧ **県教育委員会「『わかる授業』確かな実践事業」に係る実践推進校の指定**

※複数の教員による少人数指導【習熟度別少人数授業やチームティーチング】の推進（今年度は町内小中学校 3 校が指定を受ける）

✧ **「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取組**　　（各小中学校において年 2 回実施）

今後も、県教育委員会と連携しながら、これらの事業を充実・発展させるとともに、見直しも図りながら、児童・生徒の学力の向上に繋げるための支援に取り組んでまいります。